

第4章 効率的できめ細やかな収集・運搬体制の整備

1 ごみ収集作業

[決算額]

(単位：千円)

平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
2,594,253	2,826,379	2,822,941	2,890,235	2,979,904

* 令和4年度は、見込み額。

* 粗大ごみの収集経費を含む。

一般廃棄物処理実施計画に基づき、資源・ごみ集積所（約88,000箇所）において、可燃ごみ・不燃ごみの収集と資源の回収を行っています。

令和5年度の実施計画における各ごみ種別日量は、可燃ごみ516t、不燃ごみ22t、粗大ごみ28tとしています。

* 区で収集する事業系一般廃棄物及び一般廃棄物と併せて処理する産業廃棄物を含む。

(1) ごみの収集形態等

[収集形態]

区分	対象品目	収集方法・頻度	排出方法等
可燃ごみ	生ごみ、紙くず、衣類、プラスチック類、ゴム・皮革製品等	資源・ごみ集積所収集：週2回	ふたつき容器（軽量であり、容易に破損しない強度を持ち、耐久性を有するもの）に入れて排出する。 ※中身の見える袋等での排出も可能
不燃ごみ	小型家電、金属類、ガラス製品（びん以外）	資源・ごみ集積所収集：月2回	

* 事業系の可燃ごみ、不燃ごみは、事前に決められた金額の有料ごみ処理券を購入、貼付のうえ排出する。

* 小型家電12品目（携帯電話、携帯音楽プレーヤーなど）は区内10箇所で資源として回収している。

* 粗大ごみについては、51ページ参照。

[収集実績]

(単位：t)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
可燃ごみ	160,859	162,532	168,932	163,688	158,627
不燃ごみ	6,587	6,727	7,419	6,694	6,059

* 不燃ごみは資源化量を含む。

[資源・ごみ集積所箇所数（概数）]

(単位：箇所)

平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
80,000	80,000	84,000	86,000	88,000

[分別区分変更]

平成20年9月末まで、23区ではプラスチック、ゴム、皮革類は不燃ごみとして収集し、その多くは埋め立てていましたが、埋立処分場の延命化や資源の有効利用の観点から、区民及び事業者に発生抑制、再使用、再生利用を促した上で、同年10月より区内全域でプラスチック等は可燃ごみとして収集する分別区分変更を実施しました。収集されたプラスチック等は清掃工場で焼却され、熱として有効利用しています。

なお、この分別区分変更に伴い、効率的な収集運搬を行うため、不燃ごみの収集回数を週1回から月2回に変更し、併せて、可燃ごみ、不燃ごみの収集曜日を一部区域で変更しました。

(2) 高齢者等訪問収集事業

資源・ごみを資源・ごみ集積所まで自分で出すことができない、一人暮らしの高齢者等を対象に、玄関先等から可燃ごみ・不燃ごみの収集と資源の回収を行っています。収集時に異常が認められた場合は、安否確認のための声かけや、緊急連絡先等への通報を行っています。

[対象者] 満65歳以上で要介護2又は同程度の者のみの世帯

障害者（障害者手帳等取得者）のみの世帯

一時的に対象要件に該当した世帯

[収集対象世帯] 378世帯（令和5年3月末現在）

事務所	満65歳以上で要介護2又は同程度の者のみの世帯	障害者（障害者手帳等取得者）のみの世帯	一時的に対象要件に該当した世帯（内数）
世田谷	91	70	2
玉川	45	32	3
砧	84	56	0
合計	220	158	5

(3) 早朝収集

まちの美観確保等のため、下北沢駅周辺（平成11年11月から）と、三軒茶屋駅周辺（平成14年4月から）で、午前7時台にごみの早朝収集を実施しています。

(4) 不燃ごみの資源化

ごみ減量・資源化への取組みとして、平成24年8月から不燃ごみとして排出される金属系ごみを選別し売り払う、資源化事業を実施していましたが、令和2年度に入り、中国の輸入規制や廃プラスチック処理費用の高騰から、金属系ごみを売り払うことができなくなりました。そのため、令和2年10月から不燃ごみから選別された金属系ごみの再資源化処理を事業者へ委託し、より循環型社会に寄与する事業手法に変更しました。本事業で資源化処理された金属は、同事業者が金属問屋等に売却し、その売却金の一部は、収納事務委託により区に還付させています。

[実績・売却額]

(単位：t・千円)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
実績	1,466	1,500	1,611	1,385	1,204
売却額	20,013	6,380	6,922	19,789	20,679

*回収ボックスによる使用済小型電子機器の売却分を含む。

(5) 回収ボックスによる使用済小型電子機器の回収

資源・ごみ集積所から収集した不燃ごみに含まれる小型電子機器などの金属分の資源化とともに、平成25年4月から各総合支所に回収ボックスを設置し、買い替え等で不要となった携帯電話やデジタルカメラ等、レアメタルを含む有用金属含有比率の高い12品目の回収を行っています。平成26年4月には回収ボックス設置箇所を5箇所から10箇所に増設しました。

[実績]

(単位：kg)

平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
3,605.8	2,657.1	3,797.9	5,405.6	6,537.1

(6) 蛍光管の資源化

不燃ごみの金属分等資源化選別作業の際に蛍光管等を別途選別し、蛍光管に含まれる水銀や金属等の資源化処理を実施しています。平成24年11月より試行を開始し、平成27年度から不燃ごみの全量選別に伴い、本格実施しています。

[実績]

(単位：t)

平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
43	42	42	40	35

(7) 区が収集する事業系の資源・ごみ

事業系一般廃棄物（資源・ごみ）は、事業者が自らの責任において適正に処理することとなっていますが、少量排出事業者（一般廃棄物や資源をあわせたすべての排出量の1日当たりの平均が10kg未満の者）に関しては、事業系有料ごみ処理券を貼付し区収集を利用することができます。

区は基本的に産業廃棄物を収集しませんが、少量排出事業者については、特定の産業廃棄物（廃プラスチック類、紙くず、木くず、金属くず、ガラスくず及び陶磁器くずの5品目）に限り、「一般廃棄物とあわせて処理する産業廃棄物（あわせ産廃）」として、事業系一般廃棄物と同様に収集しています。

事業系の資源・ごみの出し方

事業系有料ごみ処理券（シール）は、上部の見やすい位置に貼ってお出してください。

注意! 事業系有料ごみ処理券（シール）が貼られていないもの、貼られていても料金が不足しているもの、分別されていないものは収集できません。

注意! 事業所から出る粗大ごみ相当の大きさ（一辺の長さが30cmを超えるもの）のごみは収集できません。

可燃ごみ・不燃ごみ

袋の場合
袋の容量に見合ったシールを貼ってください。

**ふたつきの容器の場合
(90%を超える容器は不可)**
中身のごみの量に見合ったシールを貼ってください。




古紙



- ・新聞(4つ折り)、雑誌類、紙パック
⇒高さ10cmにつき10%のシール1枚
- ・段ボール
⇒2枚(1枚の大きさ、100cm×80cm程度)につき10%のシール1枚

ガラスびん・缶・ペットボトル



- ①種類別に分けて
- ②中身の見える袋に入れて
- ③袋の容量に見合ったシールを貼ってください。

また、医療関係機関等で生じる感染性廃棄物は特別管理一般（産業）廃棄物に当たるため区では収集していません。ただし、少量排出事業者に関し、清掃事務所へ事前に申請のうえ、非医療廃棄物（医療行為によらない廃棄物）、非感染性廃棄物（医療行為により生じるが感染性のないもの又は滅菌処理された廃棄物）については、事業系有料ごみ処理券と区指定の識別ステッカーを貼付し、区の収集に出すことができます。

なお、注射針や鍼灸治療に伴う施術針のような鋭利なものはいかなる場合も区では収集できません。

（８）世田谷清掃工場対策

ア) これまでの経緯

区が収集した可燃ごみは、大部分を区内の清掃工場（世田谷、千歳）に運搬して焼却していますが、平成26年秋以降、1年以上にわたり世田谷清掃工場のプラントに不具合（ダイオキシン類の炉室内への漏洩等）が生じ、十分に稼働できない状況に陥りました。

区は、区民生活に混乱をきたさないよう、世田谷清掃工場以外の工場に可燃ごみを搬入するための清掃車両の増車、これに伴う補正予算編成、区民の不安解消に向けた様々な取組み等、地元区としての対応にあたりました。

東京二十三区清掃一部事務組合は、プラントの不具合に関する諸課題を解決するため、平成27年9月に世田谷清掃工場対策検討委員会（区も委員として参加）を設置しました。世田谷清掃工場は、対策を講じたうえで試験焼却や作業環境測定（ダイオキシン類等の測定）を行って安全性を確認し、1号炉は平成27年12月から、2号炉も平成28年4月から通常稼働を再開しました。

イ) 世田谷清掃工場対策検討委員会の報告

世田谷清掃工場対策検討委員会では、操業状況の確認や導入経緯の整理、原因の調査・分析及びプラントメーカーや学識経験者へのヒアリングなどを行い、総合的な対策を検討し、最終報告をとりまとめて平成28年9月に公表しています。

[主な内容]

- ・作業環境悪化は、日々の点検作業に伴う粉じん飛散、機器や接続部からのもれ、過去に漏れたダイオキシン類の再揮発が主な原因であり、その改善のため、機器類の囲い込み、吸引ダクト新設等の対策を既に実施し、効果を上げている。さらに追加対策として、消耗品交換や各種測定の充実、炉室内の再塗装も行い、作業環境管理の強化を図る。
- ・故障停止は、ガス化炉における流動不良、燃焼溶融炉における閉塞と冷却水漏れが主な原因であり、故障停止低減に向けた対策として、ガス化炉本体と燃焼溶融炉の清掃・点検の追加、機器点数の低減や仕様変更等を行い、運転管理を強化する。
- ・こうした対策を着実に実行し、その効果を継続的に検証する。検証結果を踏まえて今後の整備工事の具体的内容を検討し、整備工事の実施については、清掃一組の「一般廃棄物処理基本計画」に盛り込んでいく。

ウ) 対策効果の検証について

イ) の報告に基づき、東京二十三区清掃一部事務組合では対策を進めており、その効果を検証しています。ダイオキシン類の測定データは概ね良好に推移しており、作業環境は改善傾向にあるとの報告が平成29年4月にありました。

加えて、平成30年～令和3年にかけて機器の仕様変更等を実施し、その後の報告においても測定結果は良好であり、平成28年4月以降は、作業環境悪化による休炉はありません（令和5年4月現在）。

エ) 今後の整備について

イ) の報告 及び ウ) 対策効果の検証に基づき、東京二十三区清掃一部事務組合では、全国自治体におけるガス化溶融施設の稼働状況等の調査、プラントメーカーへのヒアリングなどを実施して耐用年数の検討や今後の整備手法について検討を行いました。その結果、竣工から20年程度稼働し、その後に建替工事による整備手法が優位となったことから、令和8年度から建て替えることとなりました。

これまで区は、世田谷清掃工場を運営する東京二十三区清掃一部事務組合に対し、安定的な中間処理体制の確保と、世田谷清掃工場周辺住民をはじめ区民の理解を得ることを求めてきており、今後も同様の姿勢で臨んでいきます。

(9) 令和元年（2019年）台風第19号に伴う災害ごみの対応

令和元年（2019年）10月12日（土）、台風第19号通過に伴う大雨により、世田谷区では多摩川の無堤防箇所からの溢水や内水氾濫が発生し、玉川地域を中心に多くの家屋が浸水被害に遭いました。

台風第19号の通過前、通過後の対応や経緯は以下のとおりです。

ア) 資源回収・ごみ収集中止についての経緯

10月10日（木）・台風の進路状況を確認し、12日（土）の資源回収・ごみ収集の実施を区HP等で周知

10月11日（金）・午後1時開催の区災害対策本部会議にて資源回収・ごみ収集の中止を決定

・午後3時頃、区HP等で資源回収・ごみ収集の中止を発表

イ) 台風第19号通過後の被災地での災害ごみの収集について

10月14日（月）以降、被災した区民から玉川清掃事務所に災害ごみの収集依頼があったことから、玉川清掃事務所にて水害の被害地域を巡回し、災害ごみの排出状況や被害状況の確認、区民への声掛けを行い、随時収集を行いました。

収集に当たっては、世田谷清掃事務所と砧清掃事務所（技能長、ふれあい指導班、地域機動班など）の応援体制を組みました。また、目黒区・品川区・渋谷区からも清掃事務所職員の応援がありました。

ウ) 被害の大きかった地区の対応について

台風第19号では浸水の被害が大きかった二子玉川から玉堤に至る地区を中心に大量の災害ごみが発生しました。そのため、区は迅速なごみ処理を目的に浸水被害の大きかった地区を指定し、当該地区から出るごみについては所定の手続がなくても手数料を免除して収集する特例的な対応を行いました。また、本来区では収集を行っていない家電リサイクル法対象品目やパソコンなども収集しました。

エ) 臨時粗大ごみ中継所の開設について

家屋の被災により生じた大型の災害ごみの効率的な収集、収集後の災害ごみの分別を行うために臨時粗大ごみ中継所を開設しました。

10月13日（日）、被災地域を管轄する玉川清掃事務所管内の玉川野毛町公園拡張予定地を開設場所として決定し、10月14日（月）から11月8日（金）まで運用しました。

オ) 災害ごみの収集量

（単位：t）

可燃ごみ	331.96
不燃ごみ	35.82
粗大ごみ	262.56
合計	630.34

家電リサイクル法対象品目 （単位：台）

テレビ	159
冷蔵庫・冷凍庫	152
洗濯機・衣類乾燥機	102
エアコン	17
合計	430

*廃家電4品目の重量は、家電リサイクル券センター指定取引場所で計量していない。

パソコン	156台	601.4kg
その他（PCモニター等）	－	550kg

今後も大型台風の直撃や大規模災害などが予想されるため、事前の準備・対策・防備などを検討し、「災害廃棄物処理計画」の検証・改定等を随時進めています。

（10）令和元年（2019年）台風第19号被災者への支援

エコプラザ用賀で毎月2回開催している粗大ごみリユース品の頒布会（抽選・有償）を、令和元年11月は台風第19号で被災した区民を対象に開催しました。

2回合わせて65件の応募があり、当選した方には希望のリユース品を無償で提供しました。

2 粗大ごみの収集

(1) 粗大ごみ収集

家庭から排出される粗大ごみ（一辺の長さが30cmを超える家具、寝具、電化製品等の耐久消費財）は、申し込みにより戸別に収集しています。（有料、事前に決められた金額の有料粗大ごみ処理券を購入、貼付のうえ排出）

粗大ごみの申し込みは、平成14年4月から、「世田谷区粗大ごみ受付センター」で、区内すべての申し込みを電話又はインターネットで受け付けており、電話等での申し込みが困難な場合はFAXでの申し込みも受け付けています。

また、粗大ごみを自ら屋外に運び出すことが困難な高齢者世帯等に対しては、管轄の清掃事務所の地域機動班が屋内からの運び出し収集（1回につき3点まで）を実施しています。

平成24年4月から「粗大ごみ運搬センター」で、収集作業の事前準備と運搬計画・車両運行管理を行い、平成25年1月からは、携帯電話やスマートフォンでの申し込みも可能となっています。

平成29年4月から「粗大ごみ運搬センター」に粗大ごみの収集を委託して、契約に基づいた指揮命令のもと、管理者による全体管理及び収集時のトラブル等への対応をしています。

＊家電リサイクル法（特定家庭用機器再商品化法）及び資源有効利用促進法の対象品目（パソコン等）を除く。

(2) 粗大ごみの持ち込み（家庭廃棄物のみ）

区民の方が粗大ごみを廃棄しやすくするため、粗大ごみ中継施設への直接持ち込みを平成18年度に試行実施し、平成20年5月より本格実施へ移行しています。

〔持込受入時間〕 毎週土・日曜日の9：00～12：00、13：00～15：30

〔実施場所〕 船橋粗大ごみ中継所

（船橋7丁目 業務委託による区搬入施設）

〔持込方法〕 事前に粗大ごみ受付センターへの申し込み時に持ち込み日を調整し、指定日に自らが実施場所に持ち込む。

〔申込み件数等〕 1世帯1日1回、1回当たりの個数は10点まで

〔手数料〕 収集する場合の半額（最低200円）

(3) 粗大ごみの収集実績

(単位：t)

平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
8,271	8,688	8,815	9,170	8,695

*区による収集量及び区民持込量の合計値。

*資源化量を含む。

(4) 粗大ごみの資源化

ア) 金属系ごみの資源化

ごみ減量・資源化への取組みとして、平成23年10月から粗大ごみとして排出される金属系ごみを選別し売り払う、資源化事業を実施していましたが、令和2年度に入り、中国の輸入規制や廃プラスチック処理費用の高騰から、金属系ごみを売り払うことができなくなりました。そのため、令和2年10月から粗大ごみから選別された金属系ごみの再資源化处理を事業者へ委託し、より循環型社会に寄与する事業手法に変更しました。本事業で資源化处理された金属は、同事業者が金属問屋等に売却し、その売却金の一部は、収納事務委託により区に還付させています。

[実績・売却額]

(単位：t・千円)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
実績	1,177	1,206	517	271	424
売却額	11,299	855	1,137	4,591	8,716

イ) 羽毛布団の資源化

収集された粗大ごみの中から羽毛布団を粗大ごみ中継所で選別し、有価物として売り払いを実施しています。平成29年12月から試行を開始し、平成30年4月より本格実施しています。

[実績・売却額]

(単位：枚・千円)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
実績	357	2,180	1,912	1,638	1,173
売却額	108	3,232	2,240	1,688	1,354

3 地域機動班

平成29年4月より、区民サービス向上に向けてきめ細かい対応等を行い、区の清掃事業の充実を図ることを目的として地域機動班を設置し、高齢者世帯等の粗大ごみ運び出し収集業務を行っています。

令和5年4月からは粗大ごみのリユース事業実施にあわせ、粗大ごみとして排出されたものから、まだ使えるものをリユース品として選別します。さらなる区民サービスの充実に向けて、粗大ごみ関連業務を中心に清掃事業に関する区民ニーズを把握し、今後も業務拡大を図っていきます。

(1) 粗大ごみ関連業務

「世田谷区高齢者世帯等粗大ごみの運び出し収集実施要綱」に基づき、粗大ごみを室内から運び出しています。この他にも粗大ごみ関連業務や不法投棄されたごみの対応などを行っています。

[運び出し実績（特別収集における運び出し件数を含む）] (単位：件^{*1})

事務所	平成30年度	令和元年度	令和2年度 ^{*2}	令和3年度	令和4年度
世田谷	714	997	1,658	2,245	2,222
玉川	373	926 ^{*3}	1,038	1,182	1,312
砧	997	910	1,606	1,662	1,550
合計	2,084	2,833	4,302	5,089	5,084

*1 申請手続きの関係上、品物3点で1件としている。

*2 新型コロナウイルス感染症感染拡大により、一定期間業務を休止したが、粗大ごみ収集までの待ち期間の延びによる緊急的な対応が増加した。

*3 台風19号による水害ごみの対応件数481件を含む。

[特別収集実績^{*1}] (単位：点^{*2})

事務所	令和2年度	令和3年度	令和4年度
世田谷	2,737	4,411	4,501
玉川	2,125	3,676	4,066
砧	3,121	2,776	1,706
合計	7,983	10,863	10,273

*1 「特別収集実績」とは、収集漏れや急な引っ越し等において対応・収集した粗大ごみの実績

*2 品目ごとの詳細な点数は資料編（156ページに掲載）

（２）高齢者等訪問収集業務（資源）

資源（古紙、ガラスびん、缶）の高齢者等訪問収集については、民間事業者に委託により実施していましたが、さらなる区民サービス向上をめざし、平成30年4月から管轄の清掃事務所の地域機動班が回収を行っています。

4 廃棄物処理手数料（ごみ処理手数料）

家庭ごみの収集、運搬及び処理処分は原則無料ですが、臨時（又は多量）排出ごみ、粗大ごみ及び動物死体については、世田谷区清掃・リサイクル条例に基づき、手数料を徴収しています。

なお、天災、火災等の災害に遭われた方や生活保護受給者、児童扶養手当受給者などの対象者については、世田谷区清掃・リサイクル条例と同施行規則に基づき、対象者からの申請により手数料を減額・免除しています。

事業系ごみの収集、運搬及び処理処分は、資源も含めて有料で、「事業系有料ごみ処理券」を清掃事務所又はスーパーマーケット・コンビニエンスストアなどの「有料ごみ処理券取扱所」で購入する方法により、手数料を徴収しています。

清掃工場等、東京二十三区清掃一部事務組合が管理する処理施設に事業者自ら事業系ごみを持ち込む場合等は、処理にかかる手数料が徴収されます。

[廃棄物処理手数料の改定について]

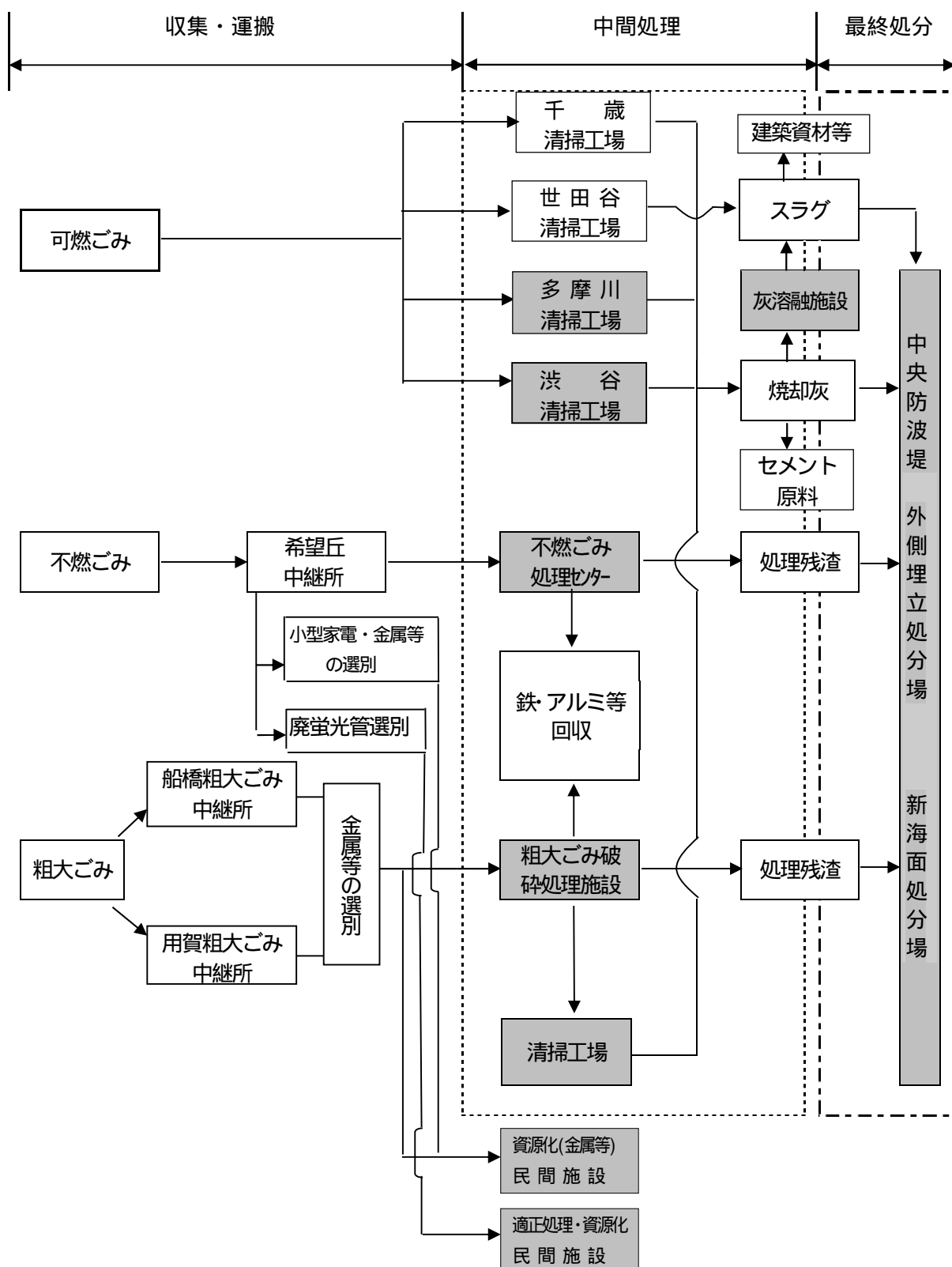
廃棄物処理手数料は、実際に廃棄物処理に要する経費を基に定めており、経費はごみ量や収集、運搬、処理処分に要する費用、その他社会情勢により変動します。このため、23区では、4年に一度廃棄物処理手数料を見直すこととしており、直近では平成29年10月1日に改定を行いました。また、動物死体処理手数料については、平成6年7月以降据え置いていましたが、区の処理経費との乖離が生じているため、受益者負担の適正化を目的として平成29年10月1日に改定しました。

令和2年度からの新型コロナウイルス感染症の感染拡大による社会情勢と今後の見通し等を考慮して、令和3年と令和4年の廃棄物処理手数料改定は延期されましたが、令和5年10月1日に改定が行われます。

*手数料の額は、資料編（164ページ）に掲載

5 ごみの処理の流れ

【可燃・不燃・粗大ごみ処理フロー図】



(注) このフロー図は通常時の流れである(灰溶融施設は現在休止中)。網掛けは区外施設を示す。

は東京二十三区清掃一部事務組合が運営する。

は東京都に委託して行う。

6 し尿の収集・運搬

[決算額]

(単位：千円)

平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
8,022	8,004	8,170	8,170	8,610

* 令和 4 年度は、見込み額。

世田谷区内の一般家庭のし尿は、平成 8 年度から 14 年度まで砧清掃事務所で区全域を収集していましたが、平成 15 年度から民間業者へ委託しています。

(平成 11 年度から 17 年度までは、世田谷区全域に加え、新宿区、渋谷区、中野区、杉並区の全域を世田谷区が 4 区から委託を受けて収集していました。平成 18 年度からは、民間業者による収集作業が安定したこと、自区内処理の原則等の観点から、各区で収集を行うようになりました。)

区内の収集対象戸数は、下水道の普及に伴い年々減少しており、令和 4 年度末現在 37 戸になりました。

し尿収集は原則として 2 週に 1 回ですが、実情に応じて収集間隔を調整しているほか、雨水の流入など特別な事情により区民から申告があった場合は、当日又は翌日の処理を目途として迅速に対応し、区民サービスの向上に努めています。

収集作業は 1.8kl 積の小型吸上車(バキューム車)で行っていますが、一部地域での狭小路地作業においては、0.35kl 積の軽小型吸上車を使用しています。吸上車は、し尿収集作業中に排出する悪臭を除去するため、脱臭装置を備え付けています。

収集されたし尿は、平成 25 年度からは堀ノ内中継所廃止に伴い、品川清掃作業所へ直接搬入しています。

(平成 24 年度までは堀ノ内中継所(杉並区施設)まで小型吸上車で運搬し、輸送効率の向上を図るため大型吸上車に積替えて、東京二十三区清掃一部事務組合の品川清掃作業所へ搬入していました。)

作業所では、一定の処理を加え固形分を取り除いた後、希釈により下水道放流基準を満たす状態に処理し、下水道に放流しています。

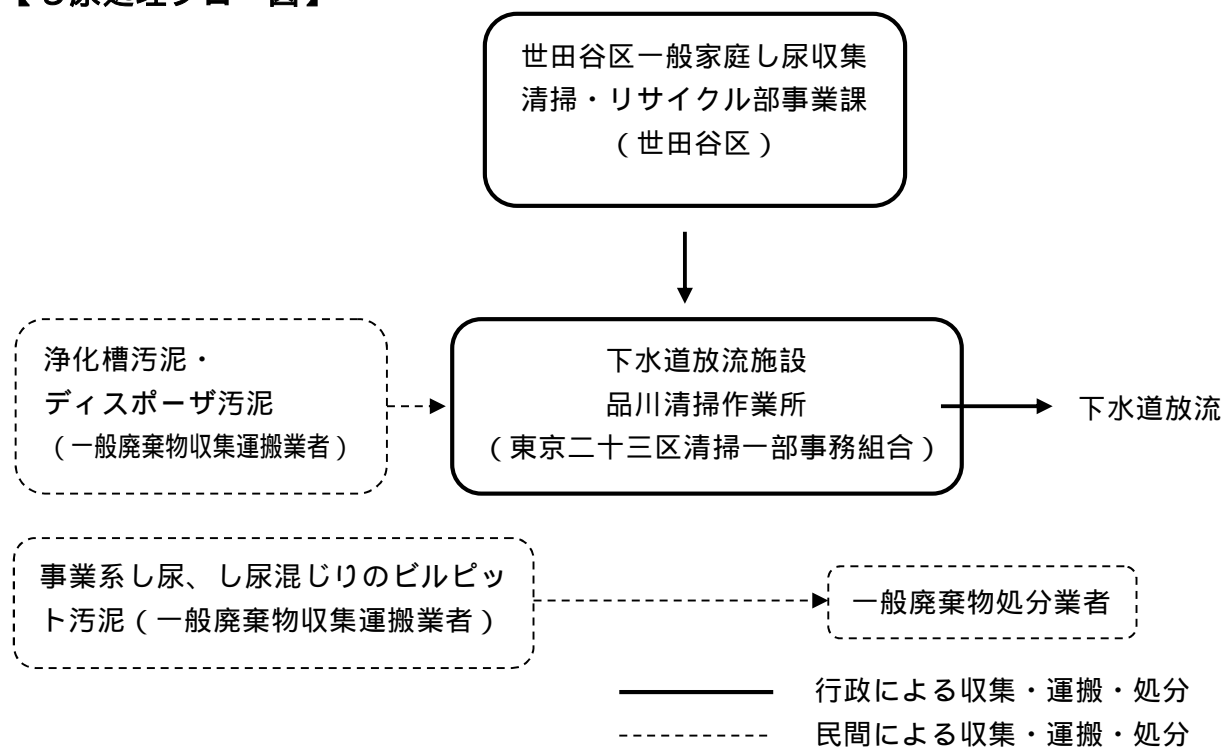
[し尿等の収集・処理の区分等]

区 分		収集運搬の主体		処理処分の主体	
家庭系	くみ取りし尿	世田谷区	無料	東京二十三区 清掃一部事務組合	無料
	浄化槽汚泥・ ディスポーザ汚泥	許可業者*1	有料		
事業系	し尿・し尿混じりの ビルピット汚泥	許可業者*1	有料	許可業者*2	有料

* 1 一般廃棄物収集運搬業者

* 2 一般廃棄物処分業者

【し尿処理フロー図】



[し尿収集対象戸数] (単位：戸)

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
対 象 戸 数	54	47	40	40	37

(令和 5 年 3 月末現在)

[し尿収集量] (単位：kl)

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
収 集 量	117.14	120.65	112.99	112.57	101.58

(令和 5 年 3 月末現在)

7 動物（犬・猫等）の死体処理

[決算額]

(単位：千円)

平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
2,506	2,822	2,439	2,245	2,454

* 令和4年度は、見込み額。

飼い主等から犬・猫などの動物死体の処理依頼があった場合は、清掃事務所に
おいて1頭（25kg未満）につき処理手数料（3,100円）を徴収して引き取
り、民間業者に処理委託して火葬後に埋葬しています。令和5年2月1日より、当該
動物の所有者又は占有者ではない動物死体の処理手数料の減免を開始しました。

[実績] 動物の死体処理頭数

(単位：頭)

清掃事務所名	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
世田谷	332	363	316	288	332
玉川	217	253	216	209	235
砧	251	266	231	232	224
計	800	882	763	729	791